

表1：震災後に増えた業務

カテゴリー	コード
食材の放射線測定	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の熱量を図るために給食を学習センターに主任が運ぶという手間が増えた。そのあと、軽減するために理事長から市から小さめの機械を贈呈され、園内で測ることができるようになった。 ・(放射線を)測るために、一定の時間をおいてからでない測定ができないため、調理をする前の人と、次の日の朝に食材を測る手間が増えた。 ・(食材を)園内で測定できる状態になったが、実際には手間がかかっている ・アレルギー食や行事食がはいつてくるときに、放射線測定が必要な食材が増える。測定している間、離乳食を見に行きたくても行けない。 ・1品測るのに最低10分はかかる。
園舎・園外等の放射線測定	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を測定後は、毎朝、園庭と保育室を全部測定している(1時間ほどかかる)。 ・市からは「測らなくていいよ」と言われているが、毎朝1時間、午後1時間、保育士が回って測っている。 ・散歩に出かけるたびに空間線量を測る業務が増えた ・自分の時間を使い、測定している。 ・散歩コースをさがすために自分のプライベートな時間や休み時間を使って測定している
学習会や会議等の業務	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会などに参加してみんなの不安を解消することに気を遣っている ・放射線についての勉強や学習会に参加し、ストレスや不安を解消している ・園全体として情報共有のための学習の場が増えた ・体の発達が悪ってきたので、どう遊ぶ方がいいのか、毎回部会でみんなで話しあっている。 ・子どもの室内遊びに関する検討会を、勤務時間外に30分程度行っている。
震災後に発生した事務作業	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで行っていた遠足のコースがいけなくなり、ネットですべて調べてアンケートをとり、線量の低いところに行く。 ・(放射線測定に関する)福島市から人件費は出るが、申請にも手間がかかっている。 ・(調理員が行った放射線量測定)の記録を、今度は(保育士の)私がデータ入力する必要がある。それを打ち込んで全部、市に出さなければならない。 ・他の地域からも通ってくる保護者もいたため、調査の時期や報告書の提出先が異なってくる。

表2：できなくなった保育実践と工夫について

カテゴリー	コード
できなくなった保育実践	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前のようにできていた散歩コースに行けなくなった ・散歩コースも除染が終わったところしか行けなくなった ・河川敷の除染がされていないので、今は以前のように遊べない ・自然と絡む部分の制限が生じている ・震災後、裸足の保育はできなくなった ・アスファルトの上しか散歩できない ・年齢にあった距離を走り、鉄棒などを行っているが、震災後はできなくなってしまった ・行きたいところを保護者にアンケートをとると線量の低いところになってしまい、今まで行けていたところに行けなくなっている ・プール遊びをテラスで行うようになった
保育実践上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・9時半になると、園庭に出て歌、体操を行っている ・震災後は、鉄棒を室内でできるようにし、平均台なども朝の日課にしている ・田植えができなくなったため、プランター栽培を行っている ・子どものどこの部分が弱り、どこの部分ができいないのか、などを調べ、どこを鍛えればいいのかを検討している ・室内にも足裏を刺激するようなものを必ず通る部分に置いたり、クラスに入る前や廊下に自分の手形を置いてタッチするとか、ちょっとした部分でやることをやっている